

平成24年（2012）栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果概要

平成25年5月23日
観光交流課

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 観光客入込数・宿泊数を推計し、観光客の動向を把握するとともに、本県観光施策の基礎資料とする。
- (2) 調査対象期間 平成24年(2012)1月1日から12月31日までの1年間（暦年）
- (3) 調査の方法 市町村からの報告に基づき、県が分類集計した。

2 調査結果の概要

観光客入込数・宿泊数、外国人宿泊数の推移〔単位：千人、％〕

※参考

区 分	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H24-23 増減	H24/23 比 (前年比)	H24-22 増減	H24/22 比 (前々年比)
入込数	80,412	83,417	85,222	74,301	82,343	8,042	110.8	▲2,879	96.6
宿泊数	8,202	7,848	7,990	6,468	7,600	1,132	117.5	▲390	95.1
外国人 宿泊数	137	102	119	55	118	63	213.8	—	—

※外国人宿泊数の調査対象はH22までは8市町、H23からは全市町。

◆観光客入込数

平成24年の観光客入込数は、8,234万人で、前年と比較して、804万人の増（対前年比110.8％）となった。平成元年の調査開始以来、最大の減少となった平成23年から大きく回復したものの、東日本大震災前の水準まで回復するにはいたらなかった。

市町別にみると、宇都宮市の1,314万人（県全体の構成比16.0％（前年17.1％））が最も多く、次いで那須塩原市952万人（県全体の構成比11.6％）、日光市950万人、佐野市826万人、那須町449万人の順となり、那須塩原市と日光市の順位が入れ替わった。

前年と比較すると、那須塩原市（対前年比140万人増）、鹿沼市（同117万人増）など、21市町（前年4市町）で増加したが、震災前の前々年を上回ったのは、7市町にとどまった。

◆観光客宿泊数

平成24年の観光客宿泊数は、760万人で、前年と比較して、113万人の増（対前年比117.5％）となった。観光客入込数と同様に、平成元年の調査開始以来、最大の減少となった平成23年から大きく回復したものの、震災前の水準まで回復するにはいたらなかった。

市町別にみると、日光市の330万人（県全体に対する構成比43.4％（前年42.7％））が最も多く、次いで、那須町156万人、宇都宮市136万人、那須塩原市92万人の順となった。

前年と比較すると21市町（前年4市町）で増加した。特に、日光市では54万人、那須町では30万人、那須塩原市では8万人の増加となったが、震災前の前々年を上回るにはいたらなかった。

◆外国人宿泊数

平成24年の外国人宿泊数は、県全体で11.8万人で、前年と比較して、6.3万人の増（対前年比213.8％）と大幅に増加した。

市町別にみると、宇都宮市の5.3万人が最も多く、次いで日光市の4.4万人となっており、両市で県全体の82.2％を占めている。

前年と比較すると、宇都宮市で3.8万人の増加となるなど、11市町で前年を上回った。

また、国・地域別では、アメリカ合衆国の2.8万人が最も多く、次いで中国（香港含む）の2.0万人、台湾の1.7万人、ヨーロッパの1.4万人の順となった。

なお、外国人宿泊数は、平成23年分から全市町を調査対象としている。